

NSF、女性・マイノリティ・障害者の科学工学分野への進出が未だ不十分と指摘（3月5日）

米国科学財団（National Science Foundation：NSF）は、女性、マイノリティ、障害者の科学工学分野における教育及び就職状況に関する報告書「2013年科学工学分野における女性・マイノリティ・障害者（Women, Minorities, and Persons with Disabilities in Science and Engineering：2013）」を発表した。

これによると、女性の場合、過去20年間で科学工学分野への進出は増加傾向にあり、特に心理学分野では学位取得者の70%以上が女性である一方、コンピューター・サイエンス分野では、学位を取得する女性の割合は18%から28%への増加に留まっており、女性の進出が最も低い分野であるという。

マイノリティに関しては、過去20年間で特に心理学、社会科学、コンピューター・サイエンス分野における学位取得者数が増加しつつあるが、2000年以降は、工学及び物理科学分野の学位取得者数は安定しており、数学分野では減少していることが明らかにされている。

さらに、①白人の科学者・エンジニアと比較すると、マイノリティの科学者・エンジニアの失業率が高い、②アジア人の科学者・エンジニアでは、女性の失業率が男性より高い、③被雇用者全体を見た場合、科学者・エンジニアでは、女性は男性と比較するとパートタイム勤務が多く、白人女性はほとんどがパートタイム勤務であるなど、格差があることが明らかにされている他、科学工学分野における障害者の雇用率は健常者よりも低いことなども示されている。

なお、本報告書は、<[http://www.nsf.gov/statistics/wmpd/2013/pdf/nsf13304\\_full.pdf](http://www.nsf.gov/statistics/wmpd/2013/pdf/nsf13304_full.pdf)>からダウンロード可能。

National Science Foundation, Report Highlights Latest Data on Women, Minorities and Persons with Disabilities in Science and Engineering

[http://www.nsf.gov/news/news\\_summ.jsp?cntn\\_id=127139](http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=127139)